

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	WU DI	非公開
カナ又は漢字氏名	吴迪	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年		
4.学校名	東京ひのき外語学院	
5.学種	日本語教育機関	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 日本へ留学するきっかけは、一つ目は、高校生のとき、稲盛和夫の人生経験や経営戦略を知りました。そして、私は彼の経営十二か条を読み、経営における基本的な原則や重要な要素を知りました。そして、トヨタ、ユニクロなどの企業の独特な経営モデルをさらに理解しました。その後、私は日本のビジネス文化に強い興味を持つようになりました。二つ目は、私は宮崎駿さんの映画がとても好きです。最初に私が注目したのは美しい画面で、日本の現実の景色もそうなのかと思わずにはいられない。人々の生活も面白いと思うので、実際に体験してみたい。三つ目は、未知の環境に飛び込み、自立心や適応力を養いたいと多様な価値観に触れ、視野を広げたいです。準備したこととしては、まず、留学目的の明確化、「何を学びたいか」「どのような経験をしたいか」を具体的に決めました。それから、日本語を勉強しました。また、各種の必要な証明書、手続きをしました。そして、会話能力を高める、現地に着いてから困らないよう、特に日常生活で使う会話を練習しました。日本の生活習慣を調べた。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の日本での留学の目標は、主に三つがあります。一つ目は、できるだけ日本語能力を向上させ、日本人らしい自然な会話ができるようになることです。二つ目は、日本の大学に入学し、経営学を専門的に学び、自分の能力を向上させ、自分の経験を豊かにすることです。三つ目、卒業した後、日本に残って働くつもりです。 現在の状況から見ると、日本語学習の面では、日常会話と授業でのリスニング、リーディング能力は大きく向上しましたが、専門論文を読むために必要な高度な語彙量と論理作文能力の面ではまだ多くの不足があります。つまり、目標に向かって順調に進んでいる部分もありますが、まだまだ努力すべき部分があります。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 日本語学校の授業の核心は、「日本語の基礎を固める」と「順調に進学する」という二つの目標を中心に設定されています。入学時にクラス分け試験があり、日本語のレベルに応じて適切なクラスに割り当てられます。初級段階では、まずしっかりとした基礎を築き、五十音図から始めて、文法、語彙、漢字を体系的に勉強します。授業活動は模倣、暗記、基礎会話練習を主とし、基本的な日常の挨拶と生活用語を学びます。中級段階では文法と語彙量が大幅に増加し、長い文章を読むことを学び始め、社会的な話題について議論し、個人的な見解を發表します。また、小論文を学び、進学面接に対して模擬と指導を行い、専用のEJU日本語とJLPTコースを設置し、大量の過去問を練習します。そのクラスには専門の進学指導の先生がいて、生徒が順調に進学できるように支援します。私の成績はクラスで中上レベルにあり、宿題を真面目に完成し、授業中は真面目に聞き、先生の質問に積極的に答え、小テストの成績もよく、定期試験と模擬試験にも積極的に参加しています。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本に来たばかりの時、教科書で学んだ日本語と実際に耳にする日本語の間に大きな格差を感じました。特に買い物をする時、店員に関連質問をした後、店員の答えが全く聞き取れず、会計の時、レジ係が「ポイントカードはお持ちですか」、「袋ご利用ですか」などの簡単な質問さえ聞き取れなかった、毎日が新しい問題の連続でした。この環境は、私に「状況対応力」と「恥ずかしくない」を教えてくださいました。わからなければ「すみません、もう一度お願いします」と聞き直す勇気、間違えれば素直に謝り、正しい表現をその場でメモして覚えています。この繰り返しによって、「生きた日本語」を急速に吸収することができました。

日本に来てからもいろいろな人と出会い、違う人と付き合うことを学びました。自分で独立して様々な問題に対処し、困難に遭遇したらすぐに助けを求めることを学びました。日本での生活は、言語の壁や文化の違いに直面する連続でしたが、その一つ一つが自己を見つめ直し、適応する力を養う機会でした。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

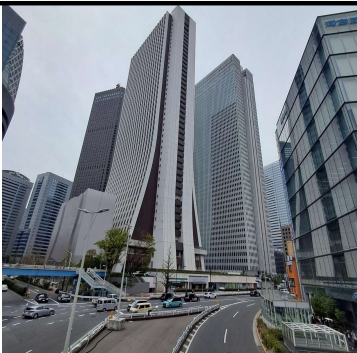
留学前は「日本と関わる仕事がしたい」という曖昧な望ましい未来像でしたが、現在はそれが具体化され、戦略化されつつあります。留学で得た最大の財産は、語学や知識以上に、「どんな環境でも生き抜く力」です。日本での生活は、私の仕事に対する価値観そのものを変えました。単に「儲かる仕事」を追い求めるのではなく、自分の強み（日本語・異文化理解・分析力）を活かして、日本と母国、あるいは世界の橋となり、より高次のキャリア観が形成されました。語学、専門知識、異文化適応力という複数の強みを組み合わせることで、選択肢が広がり、交渉力が高まります。つまり、日本留学は、私のキャリアの「選択肢の幅」、「生き残る力」、「目指す高さ」の全てを根本から押し上げてくれた、他では代替できない投資であったと思います。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

第一に、出国する前に、全力で日本語の環境に没頭してください。字幕を見ずに日本のドラマやアニメを見て、NHKニュースでディクテーションをします。目標は日常の基礎会話をし、生活指令の80%を理解できることです。第二に、授業前の予習、問題を持って授業に入り、日本語がうまく話せなくても、積極的に発言しなければならない。第三に、規則を尊重すること、例えば電車の中で静かにして、ゴミを分別する。しかし、原則の問題では、礼儀正しく確固たる方法で異なる意見を表明することを学ばなければならない。第四に、孤独は留学生の常態です。特に祝日や病気の時。自発的に結界を破り、学校の学園祭に参加し、興味のあるサークルに参加し、地元の人と接触できるアルバイトをします。日本への留学は、決して平坦な道ばかりではありません。言葉の壁、文化の違い、孤独感に押しつぶされそうになる日もあります。しかし、その困難の一つ一つが、皆さんを強くし、世界を見る目を変えてくれる貴重な経験となります。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1. アルファベット氏名	Kafle Sudarshan	
カナ又は漢字氏名	カフレ スダルサン	
2. 出身国又は地域	ネパール	
3. 学年		
4. 学校名	ISIランゲージスクール新宿校	
5. 学種	日本語教育機関	写真 日本の高層ビル見て驚いたネパールの タイトル 田舎にすんでいた私
6. 所属研究科・学部等名		
7. 学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 日本へ留学したきっかけは、日本語の能力を向上させ、日本社会への理解を深めたいと思ったからです。私は将来、日本で働くために、日本の専門学校で専門知識と実践的な技術を学びたいと考えています。そのために、まず日本の教育環境でしっかりと学ぶことが必要だと思い、日本への進学を志望しました。 留学の準備として、母国ネパールで日本留学を目標に日本語の勉強に力を入れてきました。語学学校に通い、文法や語彙だけでなく、会話練習にも積極的に取り組みました。また、毎日自宅で復習を行い、日本語のニュースや動画を見て、聞き取り能力の向上にも努めました。また、日本での生活に困らないよう、日本語の勉強に力を入れるとともに、日本の文化や生活習慣についても事前に調べました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本での留学の目標は、日本語を実践的に使いこなせるレベルまで向上させるとともに、日本社会や職場文化への理解を深めることです。特に、授業だけでなく、日常生活や対人関係を通じて、自然な日本語表現や日本人の考え方を身につけることを重視してきました。 現時点では、日常会話や学業に必要な日本語については大きな支障なく対応できるようになり、当初の目標は一定程度達成できていると感じています。一方で、専門的な内容や高度な表現については、まだ十分とは言えない部分もあり、今後は語彙力や論理的な表現力のさらなる向上を目標に、継続して努力していきたいと考えています。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 学校では、日本語の四技能（読む・書く・聞く・話す）をバランスよく伸ばす授業が行われており、文法や語彙だけでなく、実際の場面を想定した会話練習や作文指導にも力が入れています。授業内容は実践的で、日本での生活や将来の進学・就職に直結する点が特徴です。 学習環境については、教師との距離が近く、分からない点をすぐに質問できる雰囲気があります。また、クラスメート同士で意見交換をする機会も多く、互いに刺激を受けながら学習に取り組むことができています。 成績面では、日々の予習・復習を継続して行った結果、これまでの成績はすべて100%を維持しており、学習成果を着実に上げることができていると考えています。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本での生活を通して、日常会話だけでなく、日本の文化や習慣に直接触れる機会が多くありました。学校では、日本語だけを使う環境の中で授業を受け、最初は自分の考えをうまく伝えられず、苦労することもありましたが、積極的に発言するよう心がけました。

また、地域のイベントや学校行事に参加し、日本人の方々と交流する経験もしました。日本語学校の代表学生として、駅前のクリーン活動のボランティア活動にも参加しました。その中で、時間を守ることや、相手の立場を考えて行動することの大切さを学びました。日本語で会話を続けることは簡単ではありませんでしたが、失敗を恐れずに挑戦したことで、少しずつ自信ができました。

これらの経験を通して、日本語能力だけでなく、異なる文化を理解し、柔軟に対応する力も身についたと感じています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学を通して、日本語能力だけでなく、接客に必要な礼儀や考え方、「おもてなし」の精神を学ぶことができました。私は、専門学校で日本ならではの「おもてなし」の考え方や接客マナーを学び、将来は日本のホテルでホテルスタッフとして働きたいと考えています。日本での留学を通して学んだ、相手の立場になって行動することや、細かいところまで気を配る姿勢は、将来ホテルで働くうえで大きな強みになると考えています。

この留学経験を生かし、今後は日本語で円滑にコミュニケーションが取れるホテルスタッフとして、国内外のお客様に安心と満足を提供できる人材を目指していきたいです。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学に関する経験について教えてください。また、就職活動や進学に関する経験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

日本に留学し、進学に関する活動をする中で、ネパールとのさまざまな違いを感じました。特に強く感じたのは、時間に対する考え方です。日本では時間を厳守することが重視されており、授業や提出物の締め切りがはっきり決められています。この点は、将来自分が行う学習に対する責任感を高めると感じました。

また、日本の面接では、積極的に発言したり、自分の意見を論理的に伝えることが求められます。最初は戸惑いでしたが、少しずつ自分の考えを論理的に日本語で表現できるようになりました。

このような違いを経験することで、異なる価値観を理解し、柔軟に考える力が身についたと感じています。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は、簡単なことばかりではありません。言葉の壁や文化の違いに戸惑うこともあります。しかし、その一つ一つの経験が、自分を成長させてくれます。

大切なのは、失敗を恐れずに挑戦することです。分からないことがあっても、積極的に日本語を使い、人と関わることで、少しずつ自信がついてきます。努力を続ければ、必ず日本語力だけでなく、考え方や視野も広がります。

日本での留学経験は、将来の大きな財産になります。ぜひ、自分の目標を持って、日本での学びに挑戦してください。頑張れば必ず成功することができるので頑張ってくださいね。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	ENKHBOLD MARAL OD	
カナ又は漢字氏名	エンフボルド マラル オド	
2.出身国又は地域	モンゴル	
3.学年	1年	
4.学校名	JCLI日本語学校	
5.学種	日本語教育機関	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私は小学生の頃から日本語を学んでおり、日本の言語や文化に親しんできました。その中で、日本語だけでなく、日本人の考え方や時間を守る姿勢、礼儀正しさ、文化や芸術にも惹かれるようになりました。日本語をさらに高いレベルまで身につけ、日本社会や文化を実際の生活の中で理解したいと思い、日本へ留学することを決意しました。留学前には、日本語の復習や文法・語彙の強化を行い、日本語能力試験（JLPT）の勉強もしました。また、日本の生活習慣やマナーについて調べ、スムーズに生活できるよう準備しました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の留学の目標は、日本語をより流暢に話せるようになることと、日本の大学に進学することでした。日常会話だけでなく、授業や進学に必要な日本語能力を身につけることを目標としていました。現在は、会話力や聴解力が向上し、日本語でのコミュニケーションに以前より自信が持てるようになりました。また、日本の大学にも無事合格することができ、留学当初に立てた目標はほぼ達成できたと感じています。今後は、大学での学習に備えて、さらに日本語力の向上に努めていきたいと考えています。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 学校では、読解・文法・会話・聴解・作文など、日本語を総合的に学ぶ授業が行われていました。授業内容は実践的で、日常生活や大学進学に役立つ表現を多く学ぶことができました。また、大学進学に関する説明会や個別相談を通して、出願方法や必要書類など、進学に必要な情報を得ることができました。先生方も親切で、学習環境はとても良かったと感じています。成績や出席状況も安定しており、全体的に順調に学習を進めることができました。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本での生活を通して、日本語で積極的に会話することに挑戦しました。先生やクラスメート、地域の人々と交流し、日本のマナーや習慣について学びました。また、一人で生活する中で、さまざまな問題に直面し、それを自分で解決する経験を重ねました。その結果、コミュニケーション力だけでなく、自立心や問題解決能力も大きく成長したと感じています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学を通して、日本語能力だけでなく、時間を守ることや責任感などの大切さを学びました。この経験は、将来どの国で働く場合でも役立つと考えています。また、日本の大学に進学することが決まり、日本での進学準備を経験しました。日本では、出願手続きや書類の準備がとても丁寧で計画的に進められていると感じ、自国との違いを感じました。この留学経験は、今後の進路やキャリア形成に大きな影響を与えていると考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は、日本語能力だけでなく、自立心や問題解決能力も大きく成長させてくれる貴重な経験だと思います。最初は不安もあると思いますが、実際に日本で生活してみると、多くのことを学び、自分自身の成長を実感できるはずです。目標を持って努力すれば、必ず結果につながります。ぜひ勇気を持って挑戦してみてください。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	KYAW PHUE WAI WAI	非公開
カナ又は漢字氏名	プーウェイウェイチャー	
2.出身国又は地域	ミャンマー	
3.学年		
4.学校名	ヒューマンアカデミー日本語学校東京校	
5.学種	日本語教育機関	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名	日本語教育	
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 日本へ留学するきっかけは、私が母国の大学で IT を勉強していたことです。国の事情で大学を卒業することができませんでした。それでも IT 分野の勉強を続けたいという気持ちが強くなって、日本でITをしっかりと学びたいと思うようになりました。 将来は IT エンジニアとして働きたいので、日本の IT 専門学校へ進学して、専門的な知識や技術を身につけたいと考えました。そして、IT専門学校卒業後、日本の IT 企業で就職したいという目標を持ち、日本へ留学することを決めました。 留学する前には、さまざまな準備をしました。特に、日本で学ぶためには日本語がとても大切なので、自分の日本語力を上げることに力を入れました。日本語の勉強を続けたり、JLPT の試験の準備をしたりして、日本語力をしっかり身につけるように努力しました。また、日本で生活できるように、生活面や勉強面のことも考えて準備しました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 私の留学の目標は、日本でITの知識と技術をしっかりと身につけて、将来は日本でソフトウェアエンジニアとして働きたいです。また、学校やアルバイトの環境で日本語を使いながら、実践的な日本語力を伸ばすことも大きな目標の一つでした。特に専門学校でITを学んで、実際に仕事で使えるスキルや日本語を身につけることを目指したいと思います。 日本に来てから、少しずつ目標に近づいていると感じています。まず、日本語のレベルは以前より大きく上がり、学校やアルバイトで日本語を使って会話できるようになりました。また、ITの勉強でも、基本的な技術や知識を少しずつ身につけることができるように頑張ります。専門学校で学んでいることを生かして自分の夢を叶えるように頑張りたいと思います。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 今、日本語学校の授業はとても分かりやすく、先生方も丁寧に説明してくれるので、毎日新しいことを学ぶことができました。授業では漢字や語彙だけでなく、『つなぐ にほんご』のような日本の社会について学べる教科書も使っているので、日本の文化や日本人の生活スタイル、社会の仕組みなど、いろいろな知識を身につけることができました。その内容はとても面白く、学ぶことが楽しかったです。		

学習環境もとても良くて、クラスメイトはみんな日本語を一生懸命勉強しているので、自分も良い授業を受けながら学習することができました。先生方には質問しやすい雰囲気があり、学校全体の雰囲気も良かったので、集中して勉強に取り組むことができました。

成績については、最初は日本語で授業を受けるのが難しく、大変に感じることもありました。少しずつ慣れてきて、授業内容の理解やテストの点数、課題の評価も上がってきました。特に読解力や会話力は以前より大きく伸びたと実感しています。学校での努力が成績に表れて、日本語を使う自信にもつながりました。

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本人と交流したこと、交流して学ぶことができたこと。

日本に来てから、いろいろな日本の文化を体験しました。たとえば、お花見をしたり、友達ときれいな花火を楽しく見たり、日本のお寺や神社で日本人のようにお参りをしたりしました。どれもとても素晴らしくて、面白くて、日本の文化に触れてとても良い気持ちになりました。

日本人との交流で、私はアルバイトを通して多くの経験をしました。アルバイトでは日本人のスタッフやお客様と日本語で話す機会がとても多く、日本語を実際に使いながら学ぶことができました。また、仕事の研修会にも参加して、日本人の同僚と一緒に仕事の内容を勉強して、協力しながら働く経験を積むことができました。

この経験を通して、私の日本語力は以前より大きく伸びたと感じています。また、日本人が相手を大切にすることで、時間を守ることとか仕事の責任をしっかりと果たすことなど、日本の良い習慣も学ぶことができました。アルバイトは私にとって、とても良い交流の場になりました。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学は、私の人生にとっても大きな影響を与えました。まず、日本で学びながら生活することで、日本語力が大きく伸ばして、自分に自信ができました。学校の勉強やアルバイトで日本人と交流する中で、コミュニケーションの力も高まりました。時間を守ることとか責任を大切にすることとか人に対する思いやりなど、日本で学んだ良い習慣は、これからの人生にも役立つと思います。

ITの専門学校で勉強するという目標に近づいて、将来、日本でエンジニアとして働きたいという夢も、より現実的になりました。留学は、私の将来の選択肢を広げて、自分の成長を強く感じられる大切な経験になりました。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は、自分を大きく成長させてくれる素晴らしい経験です。最初は大変でも、日本語を頑張って学んで、積極的に交流すれば、新しい世界が広がります。勇気を出して一歩を踏み出してください。夢に近づけます！

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	MA HAOTIAN	非公開
カナ又は漢字氏名	マ コウデン	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年		
4.学校名	東京早稲田外国語学校	
5.学種	日本語教育機関	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私が日本への留学に関心を持ったきっかけは、高校時代に川端康成の作品を読み、日本語の表現や感性に興味を持ったことです。川端康成の作品に描かれた日本の風土や人々の生活を、より深く理解したいと考え、日本語学習と日本での留学を志しました。 留学に向けては、来日前から日本語学習に継続的に取り組み、語彙・文法の習得に加え、日本語で文章を読むことや書くことを意識した学習を進めてきました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本での留学の目標は、日本語を学習や思考の手段として実用的に使いこなせるようになることです。日本語学校での学習を通じて、日本語能力試験N1に合格するなど、語学面では一定の成果を得ることができました。しかし、日本語を学習や思考の手段として十分に使いこなすには、さらなる努力が必要であると感じています。今後も日本語力のさらなる向上を目指して努力を続けていきたいと考えています。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 在籍している日本語学校では、文法・読解・聴解・作文などの日本語能力の向上に加え、日本の伝統文化や社会に関する知識を学ぶ機会も設けられています。学習面では、授業への参加や課題提出が重視され、学習に集中できる環境が整っています。また、留学生同士の交流を通じて、日本文化に触れながら多文化的な視点を養うことができる点も特徴だと感じています。成績についても、日々の授業への取り組みが評価され、安定した成果を維持しています。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本での生活を通じて、日常会話や学校での活動を通し、日本語を実際に使う機会を多く経験しました。学校先生方や周囲の人々との交流の中で、自分の考えを相手に配慮しながら伝えることの大切さを学びました。こうした経験を通じて、言語面だけでなく、相手の立場を尊重する姿勢や柔軟な考え方が身についたと感じています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学を通じて、日本語を用いて学習・思考する力を身につけることは、今後の進学や将来の進路を考える上で重要な基盤になると考えています。日本で培った語学力や学習姿勢を、今後の学習や社会での活動に生かしていきたいと考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

日本での就労経験としては、日本語学校でのアルバイトを通じて、日本の職場環境や働き方に触れる機会がありました。業務においては、時間管理や報告・連絡・相談が重視され、責任感を持って行動することの大切さを学びました。自国と比べ、日本では周囲との協調や細やかな配慮が求められる点に違いを感じ、働く姿勢について多くの学びがありました。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学は、語学力だけでなく、自分の考え方や学習姿勢を見直す貴重な機会になります。焦らず、日々の学習を大切にしながら、一歩ずつ積み重ねていってほしいと思います。

文部科学省外国人留学生学習奨励費受給者留学報告書

1.アルファベット氏名	JIN WUJUN	非公開
カナ又は漢字氏名	金呉俊	
2.出身国又は地域	中国	
3.学年		
4.学校名	早稲田文化館日本語科	
5.学種	日本語教育機関	写真 タイトル
6.所属研究科・学部等名		
7.学習奨励費受給期間	開始年月 20 25 年 4 月 ～ 終了年月 20 26 年 3 月	
(1) (必須) 日本へ留学するきっかけや、準備したことなどを教えてください。 私は中国出身で、日本は隣国であり、文化的にも距離が近い国です。 また、『嫌われる勇気』という書籍を読んだことをきっかけに、日本社会や価値観について実際に自分の目で見てみたいと強く感じるようになりました。 さらに、子どもの頃から日本の音楽に親しんできたこともあり、日本文化に強い魅力を感じ、日本への留学を決意しました。 留学前には、日本語能力試験N2レベルまでの日本語学習を行い、基礎的な日本語力を身につけました。		
(2) (必須) 日本での留学の目標と、その目標が現時点でどのくらい達成できたか教えてください。 日本での留学の目標は、日本人と自然に会話ができるレベルの日本語運用能力を身につけることです。 現在では、日常会話において大きな支障なく交流できるようになり、実際に日本の方から日本人だと思われたこともありました。 まだ改善すべき点はあると感じていますが、目標の約半分程度は達成できていると考えています。		
(3) (必須) 学校での授業内容、学習環境、成績などについて教えてください。 学校では、学生一人ひとりのレベルに合わせた授業が行われており、学習しやすい環境が整っていると感じています。 また、授業中や授業後に気軽に質問できる雰囲気があり、先生方も丁寧に分かりやすく説明して下さいます。 そのような環境の中で、学習意欲を保ちながら取り組むことができ、成績も良好です。		

(4) (必須) 日本の文化や言語に触れた経験や挑戦したこと、または日本での交流体験（日本人学生や地域の人との交流など）と、それによって学んだことや成長したと思うことを教えてください。

日本での生活を通して、言語だけでなく、日本人の礼儀や他者への配慮を重視する文化に触れる機会が多くありました。

日常生活や学校での交流を通じて、自分の考えを相手に配慮しながら伝えることの大切さを学びました。

こうした経験を通して、異なる文化を理解し、柔軟に対応する姿勢が身についたと感じています。

(5) (必須) 日本への留学が、今後のあなたの進路（キャリア）へどのような影響を与えるか教えてください。

日本への留学を通じて、一人で困難に向き合い、乗り越える力を身につけることができました。

また、異なる社会や文化の中で生活した経験は、他者の立場を理解し、共感する力を育てる上で非常に重要であると感じています。

これらの経験は、今後の進路やキャリアを考える上でも大きな財産になると考えています。

(6) (ある場合のみ) 日本での就職活動や進学の実験について教えてください。また、就職活動や進学の実験の中で、自分の国との違いについて感じたことがあれば教えてください。

(7) (必須) 日本への留学を考えている人へのメッセージをください。

日本への留学を考えている方には、自分自身を管理し、主体的に行動することの大切さを伝えたいです。

海外では、常に誰かがそばで支えてくれるわけではありません。

自分で考え、判断し、進む力を持つことが、留學生活を充実させるために最も重要だと思います。